



# 激動の国際情勢と日本の課題 国家の安全保障と エネルギー について考える

特集

国際情勢の混迷により、エネルギー安全保障が重要性を増しています。エネルギー価格の高騰や需給ひっ迫、電力需要見通しの変化などが懸念されています。こうした中、2024年度中に策定されるとみられる第7次エネルギー基本計画は、今後どのような道筋で進められていくのでしょうか。2024年10月10日に開催したエネルギー講演会(主催：北海道エナジートーク21)の内容を抜粋して紹介します。



[イエス]  
vol. 86  
2025

北海道エナジートーク21

# Yes

◎特集◎  
激動の国際情勢と日本の課題  
国家の安全保障と  
エネルギーについて考える

## 未来に向けた 確かな見通し

A clear view of the future

利尻山は、日本最北の利尻島にある標高1,721mの独立峰。別名「利尻富士」とも呼ばれ、日本百名山では北の秀峰として一番目に数えられる。さえぎるものがない頂上からは360度の視界が広がり、晴れた日には、利尻島全域はもちろん礼文島、道央・道北の山々や、遠くサハリンも見渡すことができる。一方、国際情勢はいまだ不透明なままだが、日本のエネルギー課題を解決していくための確かな見通しが必要な時期に来ている。



## 国家の安全保障とエネルギーについて考える



2024年は「エネルギー基本計画」**【ページ下部・キーワード参照】**の第7次見直しの年です。2040年のビジョンについては、DX(デジタル・トランスフォーメーション)、GX(グリーン・トランスフォーメーション)の進展を考えて、脱炭素の電源の導入を最大限に進めていかななくてはなりません。火力発電や再生可能エネルギーだけでなく、わが国として原子力発電と再生可能エネルギーを最大限に使用して、エネルギーの安定供給を維持するという選択しかないと思います。

現在、日本のエネルギーの約72%は火力発電の脱炭素化、あるいは水素とアンモニアを混合して燃焼させるといことですが、それを図りながら原子力発電の5%、再エネ21.7%を維持するために脱炭素化の電源に必要な投資をしなければなりません。

さらに、東日本の場合は、データセンター

### エネルギーの安定供給に向けて

ガソリン価格というのは、原油価格をもとに政府の補助金が充てられて安く設定される仕組みになっています。もしも原油価格がそのまま反映されてしまったら、ガソリン価格が跳ね上がることで、輸送コストや物価が跳ね上がってしまうからです。それは日本の経済はやっていけません。

そのように、中東情勢は日本および世界の物流・経済に影響を及ぼしています。

## 国家の安全保障とエネルギーについて考える

### ロシアへの経済制裁の影響

ウクライナ戦争により、日本を含む先進国はロシアに対して経済制裁をかけた。ロシアが持っている銀行口座の凍結、ロシアが輸出している原油を買わないようにすることです。

この影響を受けている国々は、ロシアの原油に依存するのは無理だということになり、脱炭素化に切り替えています。イギリスはその典型で、国内のすべての電力を洋上風力にしていくということです。そのほか、原発を再開する国も出てきています。

右派とは右翼ではなく、自国の利益を重んじる考えの人たちです。移民や難民によって国の治安も経済も悪くなる。食べ物の国にとって悪い。税金を取って兵器をウクライナに渡して、どれだけの効果があるのかということ、ヨーロッパからウクライナに送る兵器の数がどんどん減っています。

そのように世界の傾向は、単にリーダーが変わったからではなく、思想が変わってきています。他国も大事だけれども、自分たちの国をもっと大事にしようという考えです。ヨーロッパがそういう状態なので、ウクライナ戦争は非常に厳しい状況だと思っています。

### 日本の原油価格高騰の原因

2023年10月、パレスチナのイスラム組織ハマスがイスラエルに大規模な襲撃を仕掛けました。これに対してイスラエル

ロシアの原油が止められた結果、天然ガスも止められ、原油の枯渇状態が起こっています。

一方、ロシアも原油が売れないと産業が成り立ちません。持っている原油は先進国に売れないので、買ってくれる国に売るわけです。

その最大の得意先が中国やインドです。中国はロシアへの制裁に加わっておらず、おそらく非常に安い値段で買取って備蓄している。その外貨がロシアに入り、ロシアはそれで物資を手に入れていきます。ロシアが兵器を作る場合、部品やチップなどの細かい原材料も中国から仕入れています。そうやってロシアは物資を手に入れた兵員と装備の足りない部分をイランと北朝鮮から確保したり、自国で不法に部品を集めて作ったりしています。

兵員や装備が不足しているのはウクライナも同じです。しかし、NATOの国々から兵員を出すや条約違反になるので、できない。ウクライナは徐々に劣勢な状態になり、中長期的にみると、ロシアのほうが有利だと思っています。

や半導体工場の新設が予定されており、電力が足りなくなることが予測されています。東日本では稼働していない原子力発電所が12基もあり、既に稼働している西日本と比べ、電力料金が2〜3割高くなっています。

ですから、やはり低炭素電源である原子力発電所を確実に動かせる状況に進めないといけないと思います。

さらに北海道では、寿都町と神恵内村の2カ所において、最終処分場の文庫調査の審議を進めていただいているということ、これは大変ありがたいことです。

日本の将来を考えた場合に、例えば原子力発電の革新的な炉を作つて、より安全な炉にしていこうという努力も必要です。しかし同時に、高レベル放射性廃棄物の最終処分をどのようにして進めていくかということも、われわれや子孫にとって死活的に重要な問題です。関係者の方々が本当にご苦労をされて、この文庫調査の報告書を作り、審議をしていただいていることに敬意を表する次第です。

いずれにしても、原子力発電所を再稼働するには大変お金がかかります。経費が無駄なく安全のために使われるのかということ、十分に審査しながら再稼働を進めていき、将来は最終処分場を探すところまでたどり着かないといけないと思います。

原子力発電所も絶対に事故を起こさないようにするのを大前提に、原子力発電による恩恵を、そこに住んでいる人々と子孫までもが心底理解できるような、そういう原



は、ハマスの壊滅と人質の奪還のためにガザ地区への大規模な攻撃を始めました。それからちょうど1年経ち、ガザ地区は壊滅状態になり、死者は少なくとも4万人以上といわれます。激しい攻撃はいまなお続いています。

さらに、2024年1月、紅海周辺のアデン湾で石油タンカーが、ハマスの連帯を掲げるイエメンの反政府勢力であるフーシ派によってミサイル攻撃を受けました。以降、紅海とその周辺での船舶攻撃が止まらず、その影響によって多くの船舶がアフリカ南端の喜望峰を通るルートに迂回することを余儀なくされています。

日本の原油タンカーは、喜望峰を通過してインド太平洋に抜け、南シナ海を通り、最後は台湾海峡を通らずに日本に来るといふルートです。そのことで約15%程度は航路が長くなります。当然、燃料も時間も多くなってしまう。その結果、原油価格が上がっています。



会場には約250人が来場し、森本氏の講演に熱心に耳を傾けていました

## KEYWORD

### エネルギー基本計画

日本のエネルギー政策の基本的な方向性を示す計画として、2024年12月17日、第7次エネルギー基本計画の原案が公開されました。第6次計画策定以降に生じた状況変化を反映し、2040年度に向けたエネルギー政策の方向性が示され、パブリックコメントによる意見の反映などを経て、2025年3月末ごろまでに策定される見通しとなっています。

## KEYWORD

### V-Dem研究所

スウェーデンのV-Dem研究所は、世界の多様な民主主義の質を評価した指数を毎年公表しています。『デモクラシーレポート 2024』(自由民主主義指標2023)によれば、日本は自由民主主義の国と定義され、民主主義の度合いは2024年中30位と位置づけられています。

●Ene Female21

## 石狩湾新港発電所視察会とエネ・バスケット学習会を実施

2024年度で活動19年を迎えた「Ene Female21(エネ・フィーメール21)」は、生活者の視点でエネルギーや環境をテーマに学習活動を行う女性グループ(事務局:北海道エナジートーク21)。

今年度は、フィールドワークとして7月19日に北海道電力石狩湾新港発電所への視察会を実施。計35人が参加し、ガスタービンと蒸気タービンを組み合わせた同発電所の「コンバインドサイクル発電方式」について学びました。

10月22日には、第1回エネ・バスケット学習会として、講師に興梶一郎氏(神田外語大学教授)をお招きし、「いま中国

で何が起きているのか?～習近平体制の現状と課題～」と題した講演を行いました。テレビなどでおなじみの興梶氏は、世界の情勢に大きく影響を及ぼす中国について、隣国ながら真実の姿が見えづらい現状を紹介するとともに、報道から知ることのできない庶民の本音や気質、経済、政治、エネルギーについても話題を提供しました。

続く第2回エネ・バスケット学習会は2025年2月27日に開催予定で、福田浩氏(公立千歳科学技術大学教授)による半導体製造「ラピダス」についての講演を予定しています。



(写真上・右) 北海道電力石狩湾新港発電所を視察



(写真上・右) 興梶一郎氏を招いたエネバスケット学習会

●講演会など

## 道内外への視察会・見学会、旭川市で講演会を実施

北海道エナジートーク21では、エネルギーの現状について理解を深めていただく機会として、泊発電所などエネルギー関連施設の見学会・視察会を行っています。

2024年度は、泊発電所視察会を7月24日、26日、30日に実施し、当会の賛助会員86人が参加しました。また、8月6～8日には、九州電力玄海発電所へのエネルギー関連施設見学会を実施。商工団体役員および当会顧問団・理事を対象に実施し、12人が参加しました。

このほか、エネルギーと環境問題などをテーマに、地域の商工会議所・商工会などと連携して行う講演会を行っています。今年度は以下の通り、旭川市で実施しました。

開催日・会場・参加人数	演題・講師
10月30日(水) アートホテル旭川 130人	「考えてみよう エネルギーと環境のこと」 講師:石川 和男 氏 (社会保障経済研究所代表/政策アナリスト)

## 北海道エナジートーク21

顧問団 北海道商工会議所連合会 北海道経済連合会 北海道経済同友会  
北海道商工会連合会 北海道中小企業団体中央会 北海道観光機構  
北海道建設業協会 北海道友愛KAKKIN

[発行日]2025(令和7)年2月7日 [編集責任者]菅原 裕幸  
<https://www.enetalk21.gr.jp/>  
〒060-0001 札幌市中央区北1条西5丁目 北一条三井ビル2階  
☎0120-55-9710 TEL(011)251-9710 FAX(011)251-3974

## ●北海道エネルギー環境教育研究委員会 視察会・全国大会参加のほか 道東支部研究大会を開催

「北海道エネルギー環境教育研究委員会」(事務局:北海道エナジートーク21)は、校種や教科の異なる教育関係者が中心となって「エネルギー環境教育」について協同研究をしている特色ある委員会です。2024年度で設立23年を迎え、これまで異校種間、家庭、地域社会の相互連携を図りながら、21世紀を担う子どもたちがエネルギーや環境について主体的に学び、考え、「生きる力」を身に付けるための研究と、日常実践を進めてきました。

今年度の活動では、8月2日にエネルギー施設視察会を実施。北海道電力苫厚真発電所や隣の水素製造装置、北海道電力ネットワークの南早来変電所の大型蓄電池を視察し、24人が参加しました。

続いて研究・研修会では、8月4～6日に滋賀大学教育学部附属中学校で行われた日本エネルギー環境教育学会第18回全国大会に参加しました。ここでは、釧路市立鶴野小の小野寺隆教諭が「地域の自然環境保全と開発の問題を考える授業実践」と題した発表を行いました。

また、今年度は道東支部研究大会を11月13日、北海道教育大学附属釧路義務教育学校前期課程にて開催。助言者として、北海道エネルギー環境教育委員会の香西尉男委員長(札幌市立本通小学校長)を派遣し、25人が参加しました。



北海道電力ネットワーク南早来変電所の大型蓄電池



日本エネルギー環境教育学会での授業実践



道東支部研究大会の分科会で発表する香西尉男委員長

## 第10回研究大会を札幌で開催

さらには、日ごろの研究成果の発表の場として「第10回北海道エネルギー環境教育研究大会札幌大会」を11月29日、札幌市立手稲北小学校で実施しました。研究主題を「『生きる力』を培うエネルギー環境教育の実践～持続可能な社会をめざし、自ら行動する力を育むエネルギー環境教育～」として100人が参加。今回は、小学校生活科2年と中学校理科1年の公開授業が行われ、参加者は熱心に見入っていました。

このほか、北海道エネルギー環境教育研究委員会は、2025年2月15日にホテルライフォート札幌で全体研修会を開催する予定で、次年度に向けてさらに活動を深めていきます。



第10回研究大会で挨拶をする香西尉男委員長

### 公開授業



小学校生活科2年「めざせ野菜作り名人!むぎわらぼうし」で野菜をそだてよう!  
授業者/松本和彦教諭・成田千華子教諭(札幌市立手稲北小)



中学校理科1年「活きている地球」～活断層を題材に育むリスキレジャー～  
授業者/平林拓哉教諭(札幌市立あいの里東中)